

一般質問

十二月定例会では十人から一般質問が行われました。掲載は質問順です。

BSE(牛海綿状脳症)への対応や 農家支援策は



永福明治郎議員

永福明治郎議員 BSEの風評被害により大きく消費が減退し、牛枝肉相場が下落し生産農家は厳しい経営環境と考えるが、現況及び対応策は、

北村町長 九月十日の我が国で初めてのBSEの発生は、畜産農家はもとより消費者や流通・加工関係者に大きな不安と衝撃を与えている。今回の疫病に関しては、当初、国の対応の問題や人への感染の恐れ等が、消費者に国産牛肉に対する不信感を抱かせ、消費の著しい減退を招き、枝肉価格や子牛価格の暴落で農家への深刻な影響を与えている。

消費回復対策として、十一月二十五日、「宮之城町牛肉消費拡大決起大会」を開催し、畜産農家の意欲喚起と消費者への和牛肉の試食等を、また、十二月二十二日、薩摩畜連管内の市町及び関係機関・団体による「二〇〇一モーモーフェスタ川藻」として、「さつま牛消費決起大会」、「消費者とのふれあい」等のイベントを計画している。

永福議員 これに対する行政支援策は、

町長 生産農家対策として、子牛価格三五万円を下回った場合、特別措置を実施し、子牛一頭あたり一万円を限度として助成をする。肥育農家に対しては、肥育牛一頭あたり黒毛和種八千円、交雑種五千円を助成。BSE関連のつな

ぎ資金として、大家畜経営維持資金への利子補給等も今後計上していく。

永福議員 美味・安全・安心な「さつま牛」の学校給食への取り組みは、

福留教育長 教育委員会としても、児童・生徒に地元産の和牛の本当の美味しさと安全

性を知ってもらおうと同時に、保護者の方々にも「さつま牛」の安全性と品質のすばらしさを理解していただく機会ともなればと思っている。

永福議員 国道三二八号早期整備について、中心市街地活性化事業と切り離して国・県に積極的に要望活動を行うべきではないか。

町長 平成九年、宮之城土木事務所との勉強会において、下船木から市街地に向かっての四案が示され、地元説明等をするなかで、商工会、通り会等から現道拡幅案の要望が強く、十年七月、知事に要望し現道拡幅案が決定してい

る。これ以降、国道二六七号・三二八号両整備促進期成会により、下船木から地域高規格道路間六・四の整備促進、町が計画している中心市街地活性化事業と併せて、市街地部の約一・五キロの早期整備を要望してきている。この間の県当局の回答は、いずれも町の中心市街地活性化事業の整備状況、地域高規格道路の状況を見て検討する。中心市街地活性化事業の整備と併せて、一体的整備を行う必要があるため、切り離しての事業展開は考えていないとのことである。

永福議員 山崎古野地区から荒瀬入口までの国道改良工事計画は、

町長 山崎バイパスと旧道の交差点から荒瀬入口までの一、七〇〇メートル、大きなカーブが六か所あり、さらに連続しており、勾配も一定していないようである。本道路は国道三号のバイパス的役割もしており、交通量も年々増加しているため、県に強く要望していきたい。



購買者(いすの)の動向を注視する子牛生産者
(二月子牛セリ会場)